

(戸田)として参画した。

平成17年に厚生科学研究(子ども家庭総合研究事業)研究課題「科学的根拠に基づく快適な妊娠・出産のためのガイドラインの開発に関する研究」(主任研究者)では、満足なお産とは何かを明らかにすることを目的として、平成11年とほぼ同様の全国調査を行い、調査結果から「満足な妊娠出産の指標」を統計的に抽出して明らかにした。翌18年に全国調査の「快適で満足な妊娠出産の指標」に基づいて、厚生科学研究班(主任研究者:島田、分担研究者:杉本他、研究協力者)が「科学的根拠に基づいた快適な妊娠出産のためのガイドライン」を開発した。

このガイドラインは母子に優しい出産環境づくりのために、日本医療機能評価機構のHPで掲載し、公開中である。現在5年目を迎え、周産期の医療者に広く活用されるように、快適性と共に安全面を含めて更に検討し、改訂を行う。

そこで、平成23年の本研究「母親が望む安全で満足な妊娠出産に関する全国調査」では、以下のことを目的として、前回とほぼ同様の全国調査を行う。

目的1:周産期医療の経年変化やニーズを明らかにする。

目的2:「科学的根拠に基づいた快適で安全な妊娠出産のガイドライン」を改訂する。

目的3:満足なお産の産後のアウトカムとして、うつ傾向および児への愛着との関連についても検討する。

このガイドラインによって最終的には、女性が安心して産み育てる楽しさを実感できる豊かな出産環境と社会の整備、および分娩のQOLの向上に資する意義が期待できる。また、母親を対象とした3回の全国調査を通して、平成11年厚生科学研究の妊娠出産の全国調査をベースライ

ン値として、妊娠出産育児の保健医療福祉サービスを受けた母親側の視点から、「健やか親子21」における快適な妊娠・出産(母乳育児を含む)の実態の推移と評価を行い、母子保健施策および周産期医療の基礎データとして活用されることが期待される。

## B. 研究方法

期間:平成23年8月~平成23年12月

対象:全国44都道府県(今回は東日本大震災に被災した宮城、福島、岩手の3県を除外した)から下記の層化無作為抽出法により、大学病院28カ所、一般病院210カ所、産婦人科診療所160カ所、助産所61カ所の合計459施設を抽出し、産科医療機関4種および全国11地方における平成21年の分娩数に比例配分して調査対象者数10,000名を割付けた(付表1)。平成23年7月~11月に出産した産褥1か月の産褥婦10,000名に調査票を配布し、回答の得られた産褥1か月の母親4020名(回答率40.2%)を対象とした。

サンプリング方法:

具体的な対象母親数および4種医療機関の選定に当たっては、平成11年および平成17年の全国調査と全く同様に、各層ごとの割当数決定の後、層化無作為抽出法の原理に基づき抽出した。

そこで、全国11地方(北海道、東北、北陸、関東、甲信越、中部、近畿、中国、四国、九州、沖縄)、および4種の医療機関(大学病院、一般病院、診療所、助産所)の平成21年の分娩数に比例配分して、母親調査票10,000部を割付けた(表1)。

次いで、医療情報サイト「周産期の広場」の分娩施設情報から、解説者の海野信也先生(北里大学産婦人科教授)から許諾を得て、病院と

診療所の現存するリストを作成した。助産所は日本助産師会の理事会の承認を得て、日本医療評価機構に提供している助産所リストと同様の資料を入手した。

(尚、平成 11 年および平成 17 年の全国調査は病院要覧から産科を閉鎖していない全国の大学病院および一般病院を、タウンページから産科を標榜する診療所を、および日本助産師会理事会から承認を得て入手した会員名簿のうち個人名または閉鎖を除く助産所を抽出した)。

これらの施設に、産後 1 か月の母親を対象とする研究の趣旨と協力依頼の照会文書(資料 1)と回答書(資料 2)を送付した。その結果、研究協力の回答が得られたのは、44 都道府県にまたがる大学病院 28 施設、一般病院 210 施設、診療所 160 施設、助産所 61 施設、合計 459 施設であった。

**調査方法：**調査協力の回答をした施設の産科外来で、各施設の研究協力担当者が産後 1 か月検診に来所した褥婦に、調査説明文書(資料 4)を添えて母親調査票(資料 5)を施設別に割当てられた母親調査票が無くなるまで配布した。褥婦が無記名で自記式任意回答して、郵送返信により回収した。医学的な診断名や処置は母子手帳を参考にして対象者が記入した。

**調査内容：**平成 11 年および平成 17 年の全国調査結果と比較するため、前回調査の調査票を精選して数カ所の設定を加減した他は、前回と同一の設定項目・内容を用いた。

その結果、母親調査票は妊娠・分娩経過や背景等に関する 13 項目、妊娠中のケアに関する 6 項目、分娩時のケアや処置に関する 14 項目、産後の母子ケアに関する 8 項目、退院後の育児生活や満足度に関する 10 項目、合計 51 項目から構成されている(資料 5)。

**解析方法：**頻度の比較には  $\chi^2$  検定、連続変数の比較には unpaired t-test、全施設の各変数

の値は、重みづけをした解析を行い、調整率を算出した。平成 17 年の筆者らの同様の全国調査との経年比較に際し、頻度の比較には Matel-Heanzel  $\chi^2$  検定、連続変数の比較には unpaired t-test を用いた。

また、平成 17~18 年厚生労働科学研究(子ども家庭総合研究事業)で開発した「科学的な根拠に基づく快適な妊娠出産のためのガイドライン」の改訂年にあたり、「満足なお産の指標」を再探索した。妊娠期から産後までの各期における女性の満足感と各変数との間で、先ず単変量解析( $\chi^2$  検定または Mann-Whitney U 検定)を行った。その結果、有意な差の認められた変数、および仮説等から必要な変数を投入し、交絡因子を排除して独立して有意に関連する変数を抽出するロジスティック解析を行った。

統計解析には SAS ver.9.2 を使用した。

(倫理面への配慮)

無記名の自記式任意回答で郵送返信とし、対象者の特定や回答強制を回避するように配慮した。尚、本研究は大阪大学医学部保健学科倫理委員会で承認された。また、利益相反はない。

## C. 研究結果

産褥 1 か月の母親 4020 名から回答の得られた(回答率 40.2%)。各医療施設(大学病院、一般病院、診療所、助産所)および各県毎の母親調査票の配布数と返信数は(表 1)の通りである。経年比較の際に必要な施設種別ごとの、本調査、平成 17 年、平成 11 年の対象者数を表 2 に示した。

### 1. 対象特性(表 3)

出産時の平均年齢 31.7 $\pm$ 4.7 歳、初産婦 1951 名、経産婦 2067 名であった。分娩時の在胎週数は平均 38.8 $\pm$ 1.6 週、出生体重は平均 3025.4 $\pm$ 415.0g であった。母の年齢が約 1.2 歳、有意に

上昇し、それ意外は差が無かった。妊娠前のBMIは $20.8 \pm 2.8$ 、妊娠期間中の体重増加は $9.4 \pm 4.2\text{kg}$ であった。

## 2、就労状況(表3)

仕事を持つ母親の割合は、平成11年24.5%、平成17年30.6%、平成23年39.1%と約4割に達し、有意に増加した。また、仕事を続けながら出産する女性が平成11年、17年より有意に増加した(MH  $\chi^2=32.8$ ,  $df=1$ ,  $p<0.0001$ )。産休後職場復帰する母親は約11年の8%から6%に減少する一方で、育児休暇後に復帰する母親が11年14.8%、17年21.5%、23年31.6%と約1/3に、有意に増加した。妊娠出産で退職する母親は25%と横這いである。妊娠前から専業主婦であったのは44.4%から30.2%に14%減少して、母親の就労状況が有意に変化していた(MH  $\chi^2=50.3$ ,  $df=1$ ,  $p<0.0001$ )。

## 2、妊娠分娩経過、分娩様式(表4)

妊娠および分娩経過は妊娠性高血圧症が6.3%から3.6%に有意に減少した(表4)。しかし、帝王切開術実施率が平成11年13.4%(調整率13.8%)、17年15.8%(調整率15.7%)、23年17.0%(調整率17.3%)に上昇し、大学病院34.1%、一般病院20.4%、診療所12.7%で、特に大学病院と一般病院(以下、病院とする)で上昇していた。帝王切開を除く経膈の骨盤位分娩は11年1.1%(調整率1.1%)、17年0.7%(調整率0.7%)、23年1.6%(調整率1.7%)と微増した。自然分娩は1%前後減少している。

## 3、分娩施設の利用理由、転院理由(表5)

妊婦健診施設からの転院率は20%前後で、転院理由の第1位は里帰りで62%、医学的理由による転院は18%と増加した。

## 4、妊娠中の支援・ケア(表6)

出産方針や費用の説明は有意に増加した。ベースプランの相談相手は、今回調査では複数回答にした結果、夫に次いで助産師が多く49.5%

(調整率47.0%)であった。前回まで単数回答であったため一概に比較できないが、誰かに相談している妊婦の割合は平成11年に約40%から23年には63%に増加した。妊娠中のケアの満足度は平成17年よりも約9%、有意に増加した。

## 5、分娩時の医療処置(表7)

陣痛誘発、陣痛促進、および点滴が平成17年より有意に増加した。無痛分娩は2.1%から2.4%と微増している。分娩時の持続CTG有意に増加し、入院から分娩まで3回程度装着の間欠的装着の頻度が減少した。浣腸および剃毛も有意に減少し、浣腸は40%から13%に、剃毛は60%から26%に減少していた。特に病院で著明に減少した。

## 6、分娩時の支援・ケア、分娩介助者(表8)

陣痛室で最も長く傍にいた医療者は助産師、次いで看護師が多く、助産師は56%から71%に有意に増加した。一方、看護師が陣痛室で傍にいた割合は減少していた。

医療者以外に、家族のうち陣痛室で傍にいたのは夫、次いで親が多く、それぞれ56%から63%に、28%から29%に有意に増加した。一方、陣痛室で傍に誰も居なかった割合は1%と、有意に減少したが、医療側の都合で陣痛室に入らなかった割合が13%と有意に増加した。

夫立ち会い分娩は37%から58%に増加し、上の子どもの立ち会い分娩が8.2%であった。産婦自身が立ち会い分娩を希望しない割合は44%から32%に減少した。

帝王切開を含む全分娩の分娩介助者は、医師が44%(帝王切開除くと34%)から43%(帝王切開除くと29%)に僅かに減少する一方で、医師立合いで助産師介助が24%から32%に増加し、助産師のみによる介助は32%から18%に減少した。助産師介助の合計は50%前後で推移している。(表8-2)

娩出時の体位は仰臥位が95%に増加し、お産のはじめから終わりまで自由に動いて姿勢を変える、仰臥位以外の勧め、産痛緩和は僅かに減少した。

精神的な支援の実施率は80~95%程度実施されていた。しかし、分娩経過を解りやすい説明、気持ちを理解し安心させてくれた、プライバシー配慮、それぞれの実施率が平成17年よりやや回復したが、11年よりも僅かに減少した。分娩中のケアの満足度は平成17年よりも約6%、有意に増加した。

#### 7、産後の母子支援・ケア (表9)

分娩後1時間以内の母子接触は69%から82% (大学病院64%、一般病院78%、診療所87%、助産所99%) 増加した。早期授乳39%から52% (大学病院37%、一般病院51%、診療所59%、助産所88%) に有意に増加した。

入院中の母乳のみ補足は14.5% (調整率13.6%) から18.3% (調整率16.3%、大学病院23%、一般病院19%、診療所11%、助産所47%) と増加したが、平成17年よりも減少した。糖水の補足が減って、人工乳の補足が平成11年29.9% (調整率32.7%)、17年42.9% (調整率45.5%) から、23年は57.9% (調整率60.1%、大学病院58.8%、一般病院59.1%、診療所62.1%、助産所20.3%) に有意に増加した。

母子同室に関して今回初めて調査した結果、分娩直後からずっと一緒22.9% (調整率19.0%)、歩行開始後からずっと一緒12.6% (調整率13.0%)、産後何日か経て (産褥2日が36.2%) 同室、昼間のみ同室が9.3% (調整率10.1%)、母子異室12.3% (調整率13.0%)、NICU入院4.0% (調整率3.7%) であった。

1か月時の栄養法は母乳栄養が平成11年45.7% (調整率44.1%)、17年51.5% (50.2%)、23年55.2% (53.9%) と有意に上昇し、全施設で7%~21%程度増加した。大学病院49.8%、

一般病院52.6%、診療所55.1%、助産所80.5%に上昇していた。一方で、1か月時に人工栄養が平成11年5.1% (調整率5.4%)、17年3.0% (3.1%)、23年1.9% (20%) と有意に減少した。

#### 8、産後1か月時の母子の心配事 (表10)

これらの項目は施設較差が無く、初産経産別には有意差の認められた項目がある。初経産別、および仕事の有無別の、1か月間の母子の心配事および育児支援ニーズのデータを表に示した。

産後の母親は睡眠不足や疲労感が66%、乳房のトラブルが約24%、会陰の痛み16%、育児の自信がない14%、放棄感12%であった。母乳量の心配が34%、皮膚のトラブル35%、児の泣き睡眠に関する心配事が23%であった。

退院後1ヶ月間に困った母子の心配事のうち、1) 孤独感・焦りや育児放棄感の精神的な事柄、2) 乳房トラブル・会陰の痛み・尿失禁や母体の心配事、3) 児の嘔吐・体重の増え方・育児の仕方がこれで良いのか確認した (保証) やその他の育児に関する心配事、4) 夫や家族の協力不足・相談の場や専門家が居ないなど育児支援体制の心配事、5) 仕事との両立が難しい・その他の育児環境の心配事等は、1項目を除き、いずれの項目も、平成17年と同等またはやや多かった。「保育園に預けたいが入園できるかどうかわからない (保育園入園の可能性)」のみ有意に増加した。

#### 9、産後1か月の子育て支援ニーズ (表11)

乳児を持つ家庭の優遇税制57%、夜間診療を行う小児科医47%、働いていなくても預けられる一時保育37%、柔軟な予防接種時間26%、24時間電話相談が23%、乳房マッサージもしてくれる家庭訪問23%、出産施設での育児相談18%、の順に多かった。職業環境では、父親の育児休業22%、柔軟な勤務体制24%、乳児保育など18%、であった。

産後2か月から3か月の間期に、安心して楽しく育児できるようなサービスとしては、夜間診療を行う小児科医53%、働いていなくても預けられる一時保育41%、出産施設からの情報提供36%、母乳育児外来34%、24時間電話相談27%などであった。職業環境では、父親の柔軟な勤務体制33%を母親が希望していた。

#### 10、退院後の育児環境(表12)

産後の退院先は実家が最も多く55.2%、次いで自宅が40.1%、夫の実家は3.7%で、退院先は平成11年、17年と変化はなかった。

産後の育児家事の援助の主な援助者は親が70.4%(調整率70.2%)で最も多いが、平成17年よりも6%減少した。一方、夫が24.8%(調整率24.7%)で、平成11年の35.4%(調整率35.1%)を10%下回るが、平成17年よりも7%増加した。援助者が誰もいなかったのは2.9%であった。産後1か月間に約97%の褥婦が家事・育児の援助を受けていた。前回調査に比べ、夫による援助が有意に増加し、親による援助がやや減少し、産後の家事育児の援助者が有意に変化していた(MH $\chi^2=50.3$ , df=1, p<0.0001)。

退院後1か月間育児について相談した相手は、今回調査では複数回答にした結果、親が75.7%、夫52.3%、助産婦が31.2%、の順であった。前回まで単数回答であったため一概に比較できないが、産後の育児の相談者については、夫との相談(平成17年で15%)、および助産師への相談(同9.9%)が約3倍に増加した。

#### 11、満足度と再来希望(表13)

妊娠中から出産までのケア全体的に見て「満足」「やや満足」を併せて87%(調整率87.0%、大学病院80.0%、一般病院83.8%、診療所90.6%、助産所97.6%)で、平成11年83.8%、17年の80.0%よりも、約5~7%上昇した。妊娠中のケアの満足度は54.6%(調整率54.0%)に対して平成17年46.0%(調整率

45.0%)、分娩時の満足度は61.9%(調整率61.4%)に対して17年56.6%(調整率55.0%)、産後の満足度は61.2%(調整率60.3%)に対して17年53.4%(調整率52.2%)であり、いずれも17年よりも有意に上昇した。

「次回も同一施設で分娩したいか」の再来希望は平成11年85%、17年76.6%で、平成23年78.8%(調整率78.6%、大学病院65.7%、一般病院73.7%、診療所84.4%、助産所95.6%)と、平成11年よりも7%低いが、17年よりは微増した。

同じ医師が継続的に診察しているのは平成17年63.5%(調整率65.7%)であったが、23年は54.7%(調整率55.4%、大学病院33.2%、一般病院37.4%、診療所75.2%)に低下した。助産師が継続的ケアを行っていたのは平成17年29.1%(調整率26.3%)であったが、23年は23.1%(調整率20.1%、大学病院13.7%、一般病院15.9%、診療所23.5%、助産所84.7%)であった。

#### 12、産後1か月の母親におけるK6(うつ不安障害のスクリーニング尺度)の得点の分布(表14)

うつ病のスクリーニングツールであるK6を用いて、産後のうつの可能性を探った。その結果、カットオフ値である15点以上の褥婦は、本研究の対象集団の中でこの尺度に回答した3812名のうち、1.7%であった。

また、満足なお産の産後のアウトカムとして、うつ傾向および児への愛着との関連について検討した。関連要因として、仕事の有無、分娩回数、退院先、分娩時の母子接触や早期授乳(お産の時に母乳を吸わせる)、入院中の栄養、母子同室、(医師による)継続診療または(助産師による)継続ケア、産後の毎日の家事手伝いの人、産後の母体の心身のトラブルとの関連を検討した。その結果、単解析では有意な関連があるが、

多変量解析では安定した結果が得られなかった。

### 1 3、分娩担当者別の集計結果 (表 1 5)

主任研究者の研究課題の基礎データとして、助産師単独で分娩介助した時の、対象特性・背景、分娩経過、分娩時の処置・ケア、満足度について、分娩介助者別に解析を行った (表 1 5)。

### 1 4、満足感の規定因子 (表 1 6 ~ 表 2 3)

「満足なお産の指標」として、ロジスティック解析で、以下の要因が関連することが明らかになった。

#### A. 妊娠中の満足感の高さと関連したのは、

以下の 11 項目であった。

- 1) 妊娠中の健康状態に異常がなかった
- 2) プライマリ健診施設 (診療所、助産院) で妊婦健診を受けた
- 3) 妊婦健診施設と分娩施設が同じ
- 4) 医療者が妊婦の顔を見ながら話した
- 5) 自分の心身の状態について十分理解できた
- 6) その施設の出産方針の説明があった
- 7) 悩みや疑問に誠意を持って答え、毎回の健診後すっかり安心した
- 8) 助産師がバースプランの相談に乗った
- 9) 同じ医師による継続診療
- 10) 同じ助産師による継続ケア

#### B. 分娩時の満足感の高さと関連したのは、以下の項目であった。

- 1) 分娩時特に異常がなかった
- 2) プライマリ健診施設 (診療所、助産院) での分娩
- 3) 評判の良い分娩施設
- 4) 医療者の対応が良い分娩施設
- 5) 陣痛室で傍に医療者が誰か居た
- 6) マッサージや温電法で産痛緩和
- 7) 産婦の気持ちを理解し安心させた
- 8) 分娩経過の解りやすい説明

9) 娩出時の体位が仰臥位以外の体位

10) お産の時、十分尊重された

11) 助産学生が分娩介助

12) 同じ医師による継続診療

13) 不妊治療後の妊娠でない事

尚、以下の 2 項目は単解析で、分娩時の満足感の高さと有意な関連が認められた。

14) お産のとき終始自由な姿勢 ( $p < 0.0001$ )

15) 夫・パートナーが分娩に立ち会い ( $p = 0.0002$ )

更に、分娩時の異常の有無別でロジスティック解析をした結果、正常の初産婦では

16) バルサルバ法で長くいきまない事

#### C. 産後の満足感の高さと関連したのは、

以下の 13 項目であった。

- 1) 同じ医師による継続診療
- 2) 同じ助産師による継続ケア
- 3) 産後の母親が睡眠不足でない事
- 4) 母親が育児の自信がある事
- 5) 産後の乳房トラブル (しこり、痛み) が無い事
- 6) 産後の出血や悪露の心配事が無い事
- 7) 児の皮膚のトラブルが無い事
- 8) 育児の仕方がこれで良いか確認できる
- 9) 産後、夫や家族の協力が得られる
- 10) 産後、相談場所や、専門家がいる
- 11) 助産師、および (区別できないが) 看護職が退院後の 1 か月間育児の相談に乗った
- 12) 退院後、医療者に相談して育児の心配事が解決した
- 13) 帝王切開 (予定、緊急) でない事

#### D. 妊娠から産後までの医療サービスについての全体的な満足感の高さと関連したのは、以下の 12 項目であった。

- 1) 妊婦健診時に医療者は何でも話し易い雰囲気だった
- 2) 悩みや疑問に誠意を持って答え、毎回の健

診後すっかり安心した

- 3) プライマリ健診施設（診療所）での分娩
- 4) 評判の良い分娩施設
- 5) 陣痛室で傍に医療者が誰か居た
- 6) CTG の必要性の説明があり納得できた
- 7) マッサージや温電法で産痛緩和
- 8) 産婦の気持ちを理解し安心させた
- 9) お産の時、十分尊重された
- 10) 児が泣きで困ったことが無い事
- 11) 母乳が足りているか心配が無い事
- 11) 助産師退院後の1か月間育児の相談に乗った
- 12) 退院後、医療者に相談して育児の心配事が解決した

#### D. 考察

妊娠出産産後の周産期医療に関して「母親を対象としたニーズ調査」で、全国規模の疫学調査は本研究を除いて見あたらぬ。しかも、同様の全国調査を「健やか親子21」開始直前の平成11年から6年毎に3回実施しているため、その経年変化から、妊娠出産した女性の就労状況、出産の時に受けた周産期医療・ケアの量と質、家族の協力、育児環境、育児支援のニーズ、等を、快適な妊娠出産のための支援がどの程度提供されているかを、評価する基礎データとなる。

目的1の経年変化に関して特記すべきことは、以下の9点であると考えられる。

1、帝王切開術実施率が17%になり4%上昇したこと、自然分娩（正常分娩）は変化なく約7割前後である。これは最近、骨盤位や前回帝王切開などは経膈分娩のリスクを避けて帝王切開を選択するが、23年は経膈での骨盤位分娩が微増した。

2、分娩時の点滴や連続CTG等の医療処置は増加した。これは平成21年から開始した「産

科医療補償制度」によりルチンに連続モニタリングを実施するようになった事に因ると考えられる。その際、胎児心音を正確に聴取するために、終始自由な体位になること、仰臥位以外の体位を薦めることが制限され、産痛緩和ケアが減少した状況が今回の調査で明らかにされた。安全性を前提として、CTGや点滴を着けながらもある程度動ける方法など快適性を確保する工夫が必要とされる。

また、実施率7割に達した点滴は分娩時の事故防止のためルチンに実施されたかは不明である。無痛分娩は僅か2%であるが、最近では微増しつつある。無痛分娩が遙かに低いのは、国際的にもユニークな自然な分娩の伝統が日本には存在し、主として産痛に対する忍耐力や痛みに対処する文化に因ると考えられる。

3、夫立ち会い分娩が約5割を越え、普及してきた。これは、欧米と異なり日本で多かった夫の分娩立会を希望しない女性が45%から25%に減少したためと考えられる。また、分娩後1時間以内の母子接触が約8割、1時間以内の早期授乳が5割まで普及して来た。施策により、母乳育児、母子関係や、夫の分娩・育児参加が見直されて来たことの影響も考えられる。

4、1か月時の母乳栄養が平成11年44.1%、17年50.2%、23年53.9%と着実に上昇しており、母乳推進運動や施策の普及効果と考えられる。この値は「健やか親子21」の直近値を上回るが、2014年目標値60%に更に努力必要である。しかし、入院中の人工乳の補足が58%にまで増加した点は今後の改善点であろう。また、母乳育児推進のために、母子同室制の普及は20%程度（歩行開始後に同室を合わせると35%）にとどまり、出産施設の体制づくりが必要である。

5、産後1ヶ月間の家事・育児の援助は、前回調査に比べ、夫による援助が25%に回復し、親による援助が70%にやや減少した。これは父

親も育児に参加するのが当然という意識に変化しつつある兆しで、政府によるイクメン等のコマースシャルキャンペーンの影響を実際に数字で見えて取れて興味深い。

6、母子の心配事はいずれの項目も平成 17 年との差がないが、「保育園に預けたいが入園できるかどうかわからない（保育園入園の可能性）」のみ有意に増加した。これは仕事を持つ母親が 4 割に増えたため、保育園のニーズが高まったと考えられる。仕事と妊娠出産を可能にする出産環境の更なる整備が必要とされている。

産後の 1 ヶ月間は 24%の母親が母乳のトラブルを、34%の母親が母乳量の心配をしていた。産後 1 か月は、母乳育児がうまく行けば産後の母親は精神的に急に楽になる傾向があるので、退院後、育児不安の軽減のためにも乳房管理も含めた母乳育児外来等での育児相談とケアが必要である。実際に、乳房トラブルと満足度とのロジスティック解析で有意な関連が見られた（解析中の未発表データ）。

7、バースプランや育児の相談相手として、夫や親の次に助産師が選択されたことから、バースプランの活用による主体的な出産や、産後 1 か月に助産師からの育児指導やケアを提供することで、満足度を更に上げることができると考えられる。実際に、助産師によるこの 2 つの援助が満足度とロジスティック解析で有意な関連が見られた（解析中の未発表データ）。

8、仕事を持つ母親の割合が約 4 割に達し、産休後の職場復帰が減少して、育児休暇後に復帰する母親が 3 割に増加した。これは育児休暇を取れるようになり、仕事を続けながら出産する環境が整いつつあると考えられる。妊娠出産を機に仕事を辞めた母親が 24%おり、希望すれば仕事と育児を両立する支援が更に必要とされる。

9、お産に関する満足感について、妊娠中、

分娩時、産後のケアに「全く満足」だったのは 46%~57%であった。妊娠中から出産までのケア全体的に見て「満足」「やや満足」を併せると 87%で、平成 17 年、11 年よりも上昇した。次回も同一施設で分娩したいかの再来希望は 79%で、平成 11 年を下回るが 17 年よりも上昇した。妊娠中のケアの満足度、分娩時の満足度、および産後の満足度はいずれも 17 年よりも有意に上昇した。

## E. 結論

1、分娩時の医学的処置は帝王切開術が 17%に達し、点滴 70%、陣痛誘発、陣痛促進が増加し、会陰切開はやや減少した。

2、持続 CTG の増加に伴い、終始自由な体位、仰臥位以外の体位、産痛緩和の実施率が減少した。

3、夫立会分娩と早期授乳が 50%、分娩後 1 時間以内の母子接触が 80%まで普及した。

4、1 か月時の母乳栄養が平成 11 年 44.1%、17 年 50.2%、23 年 53.9%と着実に上昇した。しかし、入院中の人工乳の補足が 58%にまで増加した点は今後の改善点である。

5、産後 1 ヶ月間の家事・育児は夫による援助が 25%に回復し、親による援助がやや減少した。

6、産後の 1 ヶ月間は 24%の母親が母乳のトラブルを、34%の母親が母乳量の心配をしていた。母子の心配事はいずれの項目も平成 17 年との差がないが、「保育園に預けたいが入園できるかどうかわからない（保育園入園の可能性）」のみ有意に増加した。

7、育児支援ニーズは、乳児を持つ家庭の優遇税制 60%、夜間診療を行う小児科医 47%、一時保育 37%の順に多かった。

8、仕事を持つ母親の割合が約 4 割に達し、育児休暇後に復帰する母親が 3 割に増加した。こ



れは育児休暇を取れるようになり、仕事を続けながら出産する環境が整いつつある。

9、妊娠中から出産までの全体的に満足していた人の割合は平成17年、11年よりも上昇した。再来希望は17年よりも上昇した。妊娠中のケアの満足度、分娩時の満足度、および産後の満足度はいずれも17年よりも有意に上昇した。

今後の課題：本全国調査の結果に基づき、来年度に「科学的根拠に基づく快適で安全な妊娠・出産のためのガイドライン」を改訂する。

## F. 研究発表

1 論文発表 今年度はなし

## G. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

- |           |    |
|-----------|----|
| 1. 特許取得   | なし |
| 2. 実用新案登録 | なし |
| 3. その他    | なし |

表1 平成23年 母親調査票の配布数と返信数

調査地域		合計		大学病院		一般病院		診療所		助産院	
地方	県名	配布数	返信数	配布数	返信数	配布数	返信数	配布数	返信数	配布数	返信数
北海道	1道	374	156	0	0	190	78	180	74	4	4
	青森	258	103	0	0	180	72	70	26	8	5
	(岩手)	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
	(宮城)	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
	秋田	30	12	0	0	30	12	0	0	0	0
	山形	303	136	10	7	120	67	173	62	0	0
	(福島)	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
東北	6県	591	251	10	7	330	151	243	88	8	5
東京	1都	1039	391	170	72	455	165	370	134	44	20
	茨城	209	78	0	0	160	54	49	24	0	0
	栃木	230	118	0	0	50	8	170	104	10	6
	群馬	330	123	10	5	250	87	70	31	0	0
	埼玉	376	146	0	0	200	74	160	63	16	9
	千葉	280	112	40	8	70	21	165	78	5	5
	神奈川	727	295	100	38	450	196	135	36	42	25
関東	6県	2152	872	150	51	1180	440	749	336	73	45
	新潟	105	48	0	0	35	15	70	33	0	0
	富山	100	40	0	0	10	2	90	38	0	0
	石川	85	41	30	13	35	13	0	0	20	15
	福井	130	46	0	0	40	6	80	34	10	6
	山梨	85	41	15	8	50	22	20	11	0	0
	長野	240	117	0	0	110	64	130	53	0	0
甲信越	6県	745	333	45	21	280	122	390	169	30	21
	静岡	387	168	40	15	120	57	205	81	22	15
	愛知	258	92	40	12	130	43	85	35	3	2
	岐阜	286	86	20	14	180	37	70	20	16	15
	三重	255	88	0	0	110	39	145	49	0	0
東海	4県	1186	434	100	41	540	176	505	185	41	32
	滋賀	35	19	15	5	20	14	0	0	0	0
	京都	163	79	0	0	68	39	95	40	0	0
	大阪	966	391	45	17	490	236	390	109	41	29
	兵庫	304	138	0	0	114	45	160	83	30	10
	奈良	87	46	0	0	39	14	30	21	18	11
	和歌山	105	49	20	10	20	8	35	14	30	17
近畿	6県	1660	722	80	32	751	356	710	267	119	67
	鳥取	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	島根	153	32	60	6	60	15	30	10	3	1
	岡山	52	24	0	0	22	10	0	0	30	14
	広島	253	86	15	6	55	19	180	58	3	3
	山口	167	75	0	0	132	53	30	18	5	4
中国	5県	625	217	75	12	269	97	240	86	41	22
	徳島	90	41	30	19	60	22	0	0	0	0
	香川	61	36	0	0	20	7	26	21	15	8
	愛媛	153	58	0	0	40	26	105	25	8	7
	高知	75	44	0	0	10	6	65	38	0	0
四国	4県	379	179	30	19	130	61	196	84	23	15
	福岡	501	176	50	17	100	36	330	111	21	12
	佐賀	20	11	0	0	10	5	10	6	0	0
	長崎	110	54	15	4	30	15	65	35	0	0
	熊本	70	27	0	0	65	27	0	0	0	0
	大分	159	66	0	0	50	13	99	48	10	5
	宮崎	113	29	15	3	70	10	20	12	8	4
	鹿児島	123	44	50	16	60	21	3	3	10	4
九州	7県	1091	407	130	40	385	127	527	215	49	25
沖縄	1県	158	58	10	1	40	12	90	38	18	7
発送合計	返送合計	10000	4020	800	296	4550	1785	4200	1676	450	263
最終割付率	回収率	100.0%	40.2%	8.0%	37.0%	45.5%	39.2%	42.0%	39.9%	4.5%	58.4%

( )内の東北3県は2011年3月の東日本大震災の被災地であるため、今回は全国調査の対象から除外し、他院で分娩した褥婦にも産後1か月検診で配布しているため、返送数は施設別の分娩数とは異なることがある

表2 対象者数

	平成23年(名)		平成17年(名)		平成11年(名)	
大学病院	296	7.4%	213	5.5%	405	10.0%
一般病院	1831	45.5%	1916	49.7%	1801	44.3%
診療所	1640	40.8%	1479	38.4%	1525	37.5%
助産所	252	6.3%	244	6.3%	335	8.2%
無回答	1	0.02%			1	0.02%
合計	4020	100.0%	3852	100.0%	4067	100.0%

表3 対象特性	平成23年(n=4020)	平成17年(n=3852)	平成11年(n=4067)			
年齢						
平均(SD)	31.7±4.7歳	30.5±4.6歳	29.4±4.4歳			
range	16-46	15-46	16-46			
初産婦	30.6歳	29.4歳	28.1歳			
経産婦	32.7歳	31.6歳	30.7歳			
経産回数						
初産婦	1951名(48.6%)	1980名(51.4%)	2041名(50.4%)			
経産婦	2067名(51.4%)	1870名(48.6%)	2010名(49.6%)			
無回答	2名	2名	16名			
妊娠直前のBMI	20.8±2.8	—	—			
妊娠直前の体重	52.1±7.6 kg	—	—			
妊娠中の体重増加	9.4±4.2 kg	—	—			
妊娠週数						
平均(SD)	38.8±1.6週	38.9±2.0週	38.9±2.1週			
児体重						
平均(SD)	3025.4±415.0g	3035.0±426.3g	3042.8±410.9g			
range	471-5175	526-4840	439-4840			
職業						
あり	1562名(39.1%)	1166名(30.6%)	970名(24.5%)			
なし	2432名(60.9%)	2643名(69.4%)	2991名(75.5%)			
無回答	26名	43名	106名			
産後6週以内に勤務	66	1.7%	79	2.1%	68	1.7%
産休後復帰予定	234	5.9%	270	7.1%	315	8.0%
育児休暇後復帰予定	1262	31.6%	816	21.5%	587	14.8%
妊娠出産で退職	1001	25.1%	1117	29.4%	1027	25.9%
求職中	128	3.2%	114	3.0%	108	2.7%
専業主婦	1206	30.2%	1312	34.5%	1760	44.4%
その他	97	2.4%	96	2.5%	96	2.4%

表4 妊娠・分娩経過

	平成23年(n=4020)	平成17年 (n=3850)	平成11年 (n=4067)			
<b>妊娠中の経過</b>						
特に異常なし	2928	72.8%	2829	73.5%	3027	74.3%
妊娠性高血圧症	143	3.6%	140	3.6%	257	6.3%
胎児発育遅延	260	6.5%	288	7.5%	272	6.7%
胎盤の異常	176	4.4%	52	1.4%	41	1.0%
羊水の異常	122	3.0%	98	2.6%	118	2.9%
妊娠中、骨盤位	-	-	165	4.3%	164	4.0%
<b>不妊治療後の妊娠</b>						
体外受精・顕微授精	302	7.5%	-	-	-	-
人工授精・排卵誘発	163	4.1%	-	-	-	-
子宮の術後(帝切、筋腫等)	134	3.3%	-	-	-	-
内科の合併症	350	8.7%	-	-	-	-
その他の異常	103	2.6%	-	-	-	-
その他の異常	506	12.6%	773	20.1%	649	16.0%
<b>分娩経過</b>						
特に異常なし	2668	66.4%	2531	65.8%	2827	69.4%
微弱陣痛	478	11.9%	464	12.1%	411	10.1%
胎児機能不全	108	2.7%	53	1.4%	95	2.3%
出血多量	384	9.6%	356	9.2%	255	6.3%
骨盤位(分娩時)	176	4.4%	139	3.6%	157	3.9%
その他の異常	263	6.5%	351	9.1%	305	7.5%
<b>分娩様式</b>						
自然分娩(正常分娩)	2712	67.5%	2685	68.7%	2833	69.6%
吸引分娩	335	8.3%	286	8.0%	299	7.1%
鉗子分娩	43	1.1%	30	0.8%	87	0.9%
帝王切開	684	17.0%	603	15.8%	547	13.4%
予定帝王切開	402	10.0%	-	-	-	-
緊急帝王切開	282	7.0%	-	-	-	-
骨盤位分娩(帝切除く)	66	1.6%	27	0.7%	45	1.1%

表5 分娩施設の選択理由、および妊婦健診施設からの転院理由

3項目	平成23年(n=4020)	平成17年 (n=3850)	平成11年 (n=4067)
出産施設選択理由			
近い	2084 51.8%	1884 49.0%	1991 48.0%
大きい	955 23.8%	863 22.4%	1018 24.5%
小さい	64 1.6%	-	-
有名	384 9.6%	363 9.4%	413 9.9%
好評	1474 36.7%	1371 35.6%	1790 43.1%
お産のやり方	477 11.9%	467 12.1%	595 14.3%
母児同室	660 16.4%	712 18.5%	639 15.4%
母児異室	52 1.3%	-	-
経済的	656 16.3%	736 19.1%	1102 26.5%
前回良かった	203 5.1%	206 5.4%	175 4.2%
アメニティ	1005 25.0%	955 24.8%	1196 28.8%
オープンまたはセミオープンシステム	677 16.8%	672 17.5%	782 18.8%
オープンまたはセミオープンシステム	47 1.2%	-	-
出産施設が他になかった	223 5.5%	-	-
特に理由なし	30 0.8%	49 1.3%	48 1.2%
その他の理由	798 19.9%	764 19.9%	805 19.4%
妊婦健診と同じ分娩施設	3088 78.1%	3010 78.6%	3338 80.9%
異なる施設	863 21.8%	819 21.4%	787 19.1%
異なる施設で分娩する理由			
里帰り	566 62.0%	494 60.8%	509 64.8%
経済的理由	5 0.6%	9 1.1%	8 1.0%
医学的理由で他院紹介	164 18.0%	126 15.5%	93 11.8%
他院外来受診	69 1.7%	-	-
他院入院	95 2.4%	-	-
受けたいサービスと違った	20 2.2%	28 3.5%	48 6.8%
その他	158 17.3%	155 19.1%	127 16.2%

表6 妊娠中の支援・ケア

7項目	平成23年(n=4020)	平成17年 (n=3850)	平成11年 (n=4067)		
妊婦健康診査の時に					
医療者の自己紹介 あり	1978	50.2%	1620 43.2%	1895 47.4%	
顔を見て話す	3795	95.0%	3627 94.9%	3905 95.4%	
質問しやすい雰囲気	3428	85.9%	3211 84.1%	3904 88.0%	
心身の理解					
はい	3193	79.7%	2907 75.9%	-	-
いいえ	148	3.7%	137 3.6%	-	-
どちらともいえない	667	16.6%	787 20.5%	-	-
出産方針の説明					
はい	3291	82.4%	3008 79.0%	3040 75.1%	
いいえ	163	4.1%	166 4.4%	254 6.3%	
説明なし	539	13.5%	636 16.7%	755 18.6%	
出産費用の説明					
はい	3040	76.50%	2664 70.2%	2686 66.2%	
いいえ	305	7.70%	298 7.9%	440 10.8%	
説明なし	629	15.80%	831 21.9%	933 23.0%	
健診後すっかり安心					
はい	3036	76.2%	2761 72.6%	3148 76.9%	
どちらともいえない	793	19.9%	905 23.8%	837 20.4%	
いいえ	158	4.0%	137 3.6%	110 2.7%	
バースプラン相談者	(23年は複数回答)				
産科医	812	20.2%	212 5.8%	311 7.6%	
助産師	1989	49.5%	754 20.5%	566 13.8%	
保健師・看護師	596	14.8%	80 2.1%	195 4.7%	
助産師か看護師か不明	215	5.4%	89 2.4%	116 2.8%	
夫	2561	63.7%	1379 37.6%	1618 39.4%	
親・姉妹	2021	50.3%	454 12.4%	486 11.8%	
友人	1093	27.2%	242 6.6%	342 8.3%	
誰もいなかった	58	1.4%	44 1.2%	46 1.1%	
どんなお産したいか考えたこと	470	11.7%	383 10.4%	502 12.1%	
ない					
妊娠中のケアの満足度					
満足	2194	54.7%	1744 46.1%	-	-
やや満足	1175	29.3%	1057 27.9%	-	-
中間	491	12.3%	839 22.2%	-	-
やや不満足	127	3.2%	128 3.4%	-	-
不満足	22	0.6%	18 0.5%	-	-

表7 分娩時の医療処置

10項目	平成23年(n=4020)		平成17年 (n=3850)		平成11年 (n=4067)	
会陰切開	1555	46.0%	1708	54.4%	2000	52.1%
浣腸	451	12.9%	762	23.8%	1569	40.0%
剃毛	926	26.3%	1405	42.7%	2383	60.0%
無痛分娩	98	2.4%	79	2.1%	87	2.1%
陣痛誘発	400	10.0%	325	8.4%	293	7.1%
陣痛促進	536	13.3%	473	12.3%	480	11.6%
点滴	2579	72.4%	2273	68.1%	2676	67.3%
CTG 装着頻度						
ドップラのみ	199	5.8%	218	6.6%	353	10.2%
入院時CTGのみ	638	18.7%	618	18.7%	689	19.9%
入院時・全開前・入室後3回	595	17.5%	752	22.8%	810	23.4%
入院時,その後適時,2期は 持続装着	643	18.9%	-	-	-	-
持続的装着	803	23.6%	714	21.6%	631	18.2%
頻回	525	15.4%	1001	30.3%	986	28.4%
CTG必要性の説明で納得	2299	68.9%	2352	71.5%	2738	72.0%
納得できなかった	31	0.9%	22	0.7%	30	0.8%
説明なし	1006	30.2%	918	27.9%	1033	27.2%
その他分娩時処置	168	4.2%	195	5.1%	235	5.7%

表8 分娩時の支援・ケア

5項目	平成23年(n=4020)	平成17年 (n=3850)	平成11年 (n=4067)
陣痛室で傍に付き添った医療者			
助産師	2507 71.0%	2098 62.1%	2272 56.3%
助産師か看護師か不明	448 12.7%	466 13.8%	704 17.5%
看護師	259 7.3%	417 12.3%	612 15.2%
助産学生	132 3.7%	157 4.6%	74 1.8%
産科医	7 0.2%	15 0.4%	12 0.3%
誰か不明	21 0.6%	18 0.5%	20 0.5%
その他	87 2.5%	113 3.3%	250 6.2%
誰もいなかった	68 1.9%	96 2.8%	19 2.3%
その人に居て欲しかったか			
はい	708 20.8%	607 18.9%	782 20.3%
必要時のみいて欲しかった	520 15.3%	629 19.6%	535 13.9%
十分そばにいて安心	2046 60.1%	1819 56.7%	2349 60.9%
居て欲しくない	34 1.0%	32 1.0%	23 0.6%
家族に居て欲しい	81 2.4%	108 3.4%	158 4.1%
誰もいて欲しくなかった	14 0.4%	14 0.4%	13 0.3%
陣痛室でそばにいた医療者以外の人(複数回答)			
夫	2496 62.7%	2419 63.0%	2312 56.6%
親	1162 29.2%	1191 31.0%	1152 27.7%
姉妹	148 3.7%	160 4.2%	171 4.1%
友人	20 0.5%	32 0.8%	24 0.6%
その他の人	383 9.6%	224 5.8%	219 5.3%
誰もいなかった	41 1.0%	486 12.7%	992 23.9%
医療者側の理由で入れず	537 13.5%	32 0.8%	149 3.9%
分娩時立ち会い(医療者以外)			
夫	2304 57.4%	2024 52.6%	1521 36.9%
親	572 14.3%	465 12.1%	409 9.8%
姉妹	88 2.2%	89 2.3%	70 1.7%
友人	15 0.4%	20 0.5%	12 0.3%
子ども	326 8.2%	-	-
その他	34 0.9%	174 4.5%	154 3.7%
誰もいなかった	1389 34.6%	1572 40.9%	2380 57.3%
立ち会い不可理由			
産婦が希望せず	436 31.8%	537 38.0%	1039 44.4%
その人が希望せず	84 6.1%	114 8.1%	191 8.1%
その人が多忙	165 12.0%	144 10.2%	219 9.3%
医療者側の理由で入れず	276 20.2%	228 16.2%	497 21.3%
理由不明	11 0.8%	20 1.4%	58 2.5%
その他	398 29.1%	368 26.1%	338 14.4%



表8-2 つづき 分娩中の支援・ケア

14項目	平成23年(n=4020)	平成17年 (n=3850)	平成11年 (n=4067)
分娩介助者			
産科医	1735 43.4%	1734 46.1%	1522 39.8%
助産師	705 17.7%	1115 29.7%	1236 31.8%
医師立会で助産師	1272 31.9%	714 19.0%	913 23.5%
助産師立会で助産学生	75 1.9%	63 1.7%	31 0.8%
その他	23 0.6%	14 0.4%	30 0.8%
不明	184 4.6%	120 3.2%	160 4.1%
仰臥位以外姿勢の勧め	2116 61.1%	2037 60.2%	2408 62.1%
産痛緩和	1985 57.2%	1959 57.7%	2432 62.7%
バルサルバ法で努責			
いいえ	1275 31.7%	-	-
はい	1953 48.6%	-	-
バルサルバで努責したのは			
いきみたくなる前から	377 9.4%	-	-
いきみたくなってから	1691 42.1%	-	-
終始自由姿勢	2032 55.0%	1994 55.6%	2463 63.7%
娩出時、仰臥位	3468 95.4%	3367 91.9%	3664 91.6%
意志・希望を尊重してくれた	3164 88.9%	2998 86.7%	3452 88.5%
気持ちの理解し、安心させた	3238 91.0%	3081 88.8%	3721 93.5%
分娩の経過の解りやすい説明			
はい	3386 87.0%	3262 86.3%	3610 89.9%
理解できず	250 6.4%	308 8.1%	265 6.6%
説明なし	255 6.6%	212 5.6%	143 3.6%
プライバシー配慮	3468 95.4%	3271 94.9%	3715 97.2%
分娩直後の児との対面	3359 92.5%	3198 91.6%	3832 93.2%
分娩時、十分尊重されたと感じた	3507 93.1%	3264 90.6%	-
分娩時のケアの満足度			
満足	2489 61.9%	2156 56.7%	-
やや満足	941 23.7%	924 24.3%	-
中間	396 10.0%	50 13.1%	-
やや不満足	124 3.1%	183 4.8%	-
不満足	26 0.7%	42 1.1%	-

表9 産後の母子支援・ケア

6項目	平成23年(n=4020)		平成17年 (n=3850)		平成11年 (n=4067)	
<b>母児接触</b>						
分娩後1時間以内	3271	82.0%	2995	78.8%	2720	69.0%
分娩後2時間以内	148	3.7%	152	4.0%	178	4.5%
歩行開始から	127	3.2%	142	3.7%	298	7.6%
翌日	231	5.8%	270	7.1%	422	10.7%
その他	214	5.4%	242	6.4%	325	8.2%
<b>早期授乳</b>						
分娩後1時間以内	2056	51.7%	1925	50.9%	1522	39.1%
分娩後2時間以内	329	8.3%	269	7.1%	245	6.8%
歩行開始から	286	7.2%	283	7.5%	433	11.1%
翌日	859	21.6%	796	21.0%	1059	28.0%
その他	445	11.2%	510	13.5%	589	15.0%
<b>母子同室</b>						
分娩直後からずっと一緒	913	22.9%	-	-	-	-
歩行開始後からずっと一緒	503	12.6%	-	-	-	-
産後何日目から退院まで同室	1357	34.0%	-	-	-	-
昼同室、夜は退院まで異室	370	9.3%	-	-	-	-
退院まで異室	492	12.3%	-	-	-	-
児がNICU入院	158	4.0%	-	-	-	-
その他	196	4.9%	-	-	-	-
<b>乳補足</b>						
母乳のみ	728	18.3%	624	20.0%	574	14.9%
白湯	74	1.9%	59	1.9%	191	4.8%
糖水	623	15.6%	814	26.1%	1752	44.4%
ミルク	2306	57.9%	1337	42.9%	1181	29.9%
不明	254	6.4%	283	9.1%	249	15.0%
<b>一カ月栄養法</b>						
母乳栄養	2210	55.1%	1966	51.6%	1832	45.7%
母乳主の混合栄養	1140	28.4%	1028	27.0%	1080	26.9%
人工乳主の混合栄養	572	14.3%	701	18.4%	878	21.9%
人工栄養	77	1.9%	115	3.0%	205	5.1%
どちらか不明	9	0.2%	4	0.1%	15	0.4%
<b>産後ケアの満足度</b>						
満足	2436	61.2%	2043	53.5%	-	-
やや満足	1140	28.4%	998	26.1%	-	-
中間	572	14.3%	582	15.2%	-	-
やや不満足	77	1.9%	157	4.1%	-	-
不満足	9	0.2%	38	1.0%	-	-

表10 産後1か月の母子の心配事

	初産婦 (n=1951)		経産婦 (n=2067)		初経産 比較 $\chi^2$ 検定	平成23年 (n=4020)		平成17年 (n=3850)		平成11年 (n=4067)		
母親の心配事												
母睡眠不足疲労	1419	72.7%	1248	60.4%	***	2669	66.4%	2573	66.9%	2660	65.4%	
孤独焦り	130	6.7%	72	3.5%	***	202	5.0%	229	6.0%	123	3.0%	
放棄感	312	16.0%	184	8.9%	***	496	12.3%	567	14.8%	508	12.5%	
育児自信喪失	503	25.8%	49	2.4%	***	553	13.8%	511	13.3%	510	12.5%	
乳房トラブル	623	31.9%	348	16.8%	***	971	24.2%	945	24.6%	802	19.7%	
会陰痛み	483	24.8%	185	9.0%	***	668	16.6%	579	15.1%	431	10.6%	
悪露	288	14.8%	283	13.7%		571	14.2%	588	15.3%	560	13.8%	
尿失禁	146	7.5%	112	5.4%	**	258	6.4%	235	6.1%	104	2.6%	
その他の母体心配事	232	11.9%	369	17.9%	***	602	15.0%	578	15.0%	311	7.6%	
児の心配事												
児不眠	665	34.1%	271	13.1%	***	936	23.3%	902	23.5%	928	22.8%	
児の泣き	382	19.6%	160	7.7%	***	542	13.5%	608	15.8%	594	14.6%	
母乳量の心配	865	44.3%	504	24.4%	***	1370	34.1%	1306	34.0%	1384	34.0%	
人工乳補足量	443	22.7%	131	6.3%	***	574	14.3%	527	13.7%	547	13.4%	
嘔吐	340	17.4%	194	9.4%	***	534	13.3%	497	12.9%	457	11.2%	
便	327	16.8%	254	12.3%	***	582	14.5%	513	13.3%	604	14.8%	
皮膚	791	40.5%	609	29.5%	***	1400	34.8%	1326	34.5%	1422	35.0%	
体重	388	19.9%	260	12.6%	***	648	16.1%	621	16.2%	518	12.7%	
育児法の保証	561	28.8%	76	3.7%	***	638	15.9%	565	14.7%	509	12.5%	
その他心配事	126	6.5%	169	8.2%	*	295	7.3%	335	8.7%	206	5.1%	
育児環境について												
夫家族の非協力	80	4.1%	118	5.7%	*	198	4.9%	205	5.3%	132	3.2%	
相談場専門家なし	80	4.1%	37	1.8%	***	117	2.9%	147	3.8%	114	2.8%	
仕事両立	96	4.9%	63	3.1%	**	159	4.0%	178	4.6%	114	2.8%	
保育園入園の可能性	266	13.6%	186	9.0%	***	452	11.2%	292	7.6%	177	4.4%	
その他育児環境心配	102	5.2%	174	8.4%	***	276	6.9%	315	8.2%	121	3.0%	

\*\*\*:<0.0001, \*\*:<0.01, \*:<0.05,

表10-2 就労別にみた産後1か月の母子の心配事

	有職 (n=1562)		無職 (n=2432)		就労別 比較 $\chi^2$ 検定	平成23年 (n=4020)		平成17年 (n=3850)		平成11年 (n=4067)		
母親の心配事												
孤独焦り	96	6.2%	104	4.3%	**	202	5.0%	229	6.0%	123	3.0%	
児の心配事												
児の泣き	236	15.1%	301	12.4%	*	542	13.5%	608	15.8%	594	14.6%	
育児法の保証	271	17.4%	365	15.0%	*	638	15.9%	565	14.7%	509	12.5%	
育児環境について												
相談場専門家なし	34	2.2%	81	3.3%	*	117	2.9%	147	3.8%	114	2.8%	
仕事両立	130	8.3%	28	1.2%	***	159	4.0%	178	4.6%	114	2.8%	
保育園入園の可能性	324	20.7%	127	5.2%	***	452	11.2%	292	7.6%	177	4.4%	

\*\*\*:<0.0001, \*\*:<0.01, \*:<0.05,

表11 産後1か月の子育て支援ニーズ

	初産婦 (n=1951)		経産婦 (n=2067)		初経産 比較 χ <sup>2</sup> 検定	平成23年 (n=4020)	平成17年 (n=3850)	平成11年 (n=4067)			
希望する子育て中のサービス											
夜間診療小児科医	102	5.2%	124	6.0%		1868	46.5%	2086	54.2%	2210	54.3%
24時間電話相談	261	13.4%	145	7.0%	***	928	23.1%	866	22.5%	1145	28.2%
産褥入院	964	49.4%	903	43.7%	**	226	5.6%	215	5.6%	253	6.2%
育児相談電話リスト	397	20.4%	235	11.4%	***	406	10.1%	363	9.4%	599	14.7%
母子手帳での情報提供	557	28.6%	371	18.0%	***	633	15.8%	641	16.7%	668	16.4%
出産施設での育児相談	429	22.0%	319	15.4%	***	749	18.6%	739	19.2%	823	20.2%
必要回の家庭訪問	462	23.7%	263	12.7%	***	726	18.1%	621	16.2%	641	15.8%
乳健の育児相談	583	29.9%	392	19.0%	***	975	24.3%	830	21.6%	974	23.9%
保育幼稚園の育児相談	111	5.7%	126	6.1%		237	5.9%	162	4.2%	234	5.8%
産褥ヘルパー	232	11.9%	324	15.7%	***	556	13.8%	544	14.1%	543	13.3%
家事ヘルパー	157	8.1%	376	18.2%	***	534	13.3%	471	12.3%	457	11.2%
乳房マッサージ兼家庭訪問	446	22.9%	474	22.9%		920	22.9%	850	22.1%	782	19.2%
働いていなくても利用できる 一時預かり保育	632	32.4%	847	41.0%	***	1479	36.8%	1423	37.0%	1575	38.7%
乳児保育・延長保育・病児 保育	340	17.4%	378	18.3%		718	17.9%	653	17.0%	610	15.0%
駅近くの保育園	107	5.5%	43	2.1%	***	150	3.7%	118	3.1%	137	3.4%
職場内保育園	335	17.2%	303	14.7%	*	638	15.9%	561	14.6%	436	10.7%
育児代員配置	182	9.3%	223	10.8%		405	10.1%	348	9.1%	306	7.5%
育休中の給料保証	368	18.9%	353	17.1%		721	17.9%	599	15.6%	474	11.7%
育休後希望部署への配置	147	7.5%	143	6.9%		290	7.2%	221	5.8%	175	4.3%
育休後研修・職場情報提供	50	2.6%	71	3.4%		121	3.0%	89	2.3%	78	1.9%
父親の育児休業	343	17.6%	535	25.9%	***	879	21.9%	823	21.4%	782	19.2%
柔軟な勤務態勢	467	23.9%	499	24.1%		966	24.0%	790	20.5%	586	14.4%
社宅公舎優先的入居	96	4.9%	73	3.5%	*	169	4.2%	190	4.9%	169	4.2%
優遇税制・経済支援	1050	53.8%	1243	60.1%	***	2294	57.1%	2656	69.1%	2149	52.8%
柔軟な乳健時間	288	14.8%	335	16.2%		623	15.5%	482	12.5%	421	10.3%
柔軟な予防接種時間	517	26.5%	530	25.6%		1048	26.1%	895	23.3%	1049	25.8%
産後2～3ヶ月に希望するサービス											
夜間診療小児科医	1150	59%	1337	64.7%	***	2124	52.8%	2340	60.9%	-	-
ベビーシッター紹介	120	6%	152	7.4%		272	6.8%	300	7.8%	-	-
児童民生委員	62	3%	45	2.2%	*	107	2.7%	92	2.4%	-	-
出産施設からの情報提供	791	41%	654	31.6%	***	1446	36.0%	1439	37.4%	-	-
24時間電話相談	670	34%	406	19.6%	***	1076	26.7%	1095	28.5%	-	-
母乳育児外来	743	38%	639	30.9%	***	1383	34.4%	1248	32.5%	-	-
誰でも参加可能な施設での 育児相談	715	37%	434	21.0%	***	1149	28.6%	1099	28.6%	-	-
出産施設からの電話訪問	343	18%	211	10.2%	***	554	13.8%	619	16.1%	-	-
必要回家庭訪問	615	32%	363	17.6%	***	979	24.4%	897	23.3%	-	-
父親の交流場	122	6%	142	6.9%		264	6.6%	231	6.0%	-	-
インターネットによる育児相 談	212	10%	269	13.8%	***	481	12.0%	396	10.3%	-	-
働いていなくても利用できる 一時預かり保育	760	39%	914	44.2%	***	1674	41.6%	1639	42.6%	-	-
乳児優先入園制度	516	26%	482	23.3%	*	998	24.8%	795	20.7%	-	-
父親の育児休業	479	25%	613	29.7%	***	1093	27.2%	1140	29.7%	-	-
父親の柔軟な勤務時間	572	29%	758	36.7%	***	1331	33.1%	1380	35.9%	-	-

\*\*\*:<0.0001, \*\*:<0.01, \*:<0.05,

表11-2 就労別の産後1か月の子育て支援ニーズ